

第三章 獨立混成第百三十五旅團の狀況

一、蘇聯參戰迄の狀況

1. 旅團の新設

旅團は昭和二十年七月第六國境守備隊を基幹として編成せらる。即環潭附近永久築城陣地守備の爲昭和十三年十一月編成せられたる第六國境守備隊は、關東軍全面持久作戰計畫の決定と共に其の作戰的地位を國境築城の固守より地域を利用持久する一般野戰部隊に變換せらるゝに至り。

之より蘇國境築城に保有せる多數の兵器、資材は日本本土或は太平洋戰場に轉用せられ若くは相次ぐ新設部隊の裝備用として引上げられたるを以て、從來の陣地は既に元來の意味を喪失しありたり。

2. 旅團の編制

旅團司令部

獨立歩兵大隊 四

旅團 遊進大隊

同 砲兵隊 (中迫撃砲十二門)

同 工兵隊

同 通信隊

同 輜重隊

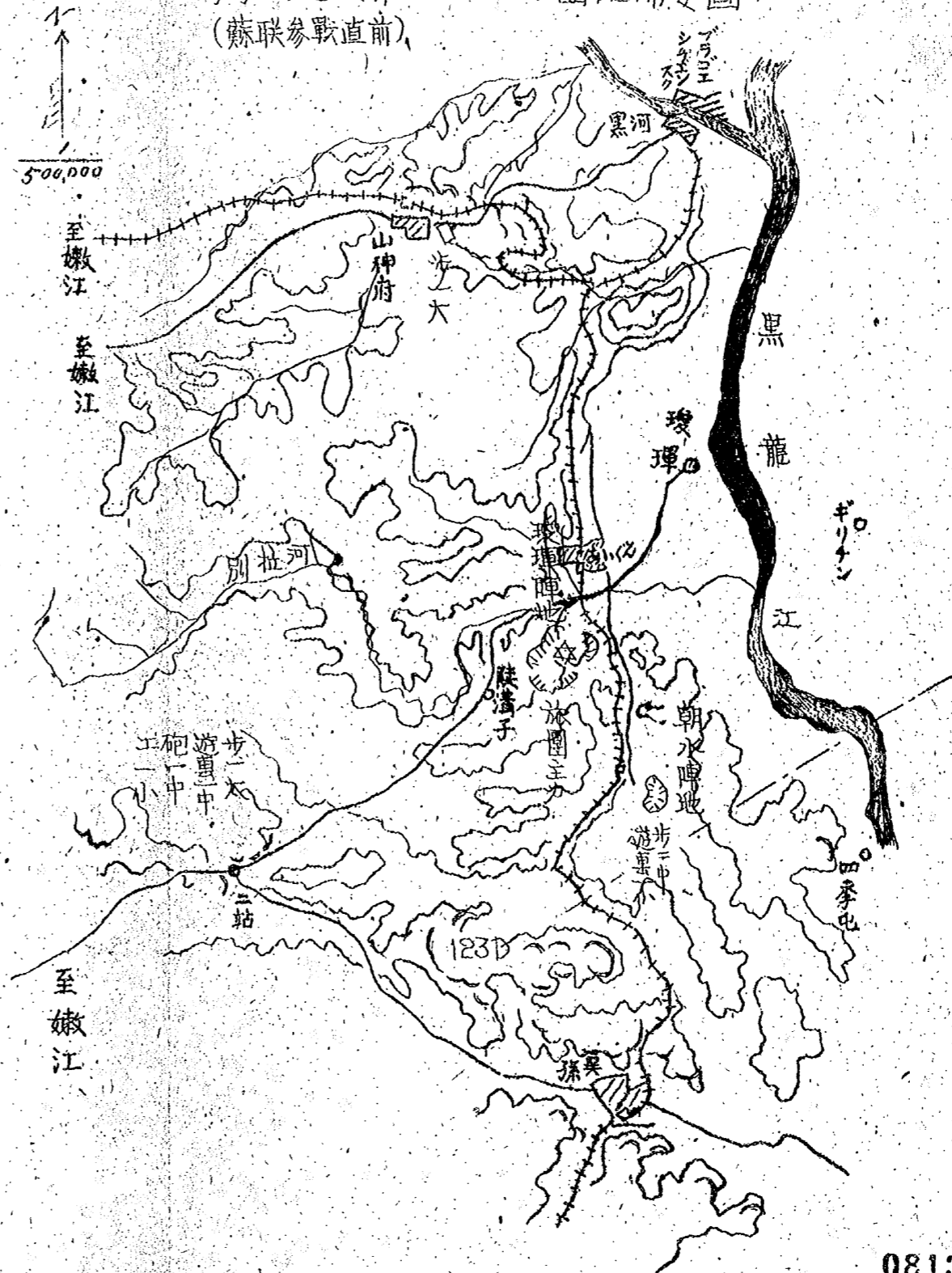
倭旅團は獨立速射砲一大隊を配屬せられり。

以上人員合計 約六、〇〇〇名なり。

3. 兵力配備

旅團は編成完結と共に第百二十三師團長の指揮下に入らしめられ
孫吳北側陣地以北の地區の警備及作戰準備を擔任せるを以て次圖
の如く配備し、二站附近派遣部隊を以て同地附近に嫩江(地名)
1 環壕道阻止の爲の障地を構築せしむ。
尙無龍江岸の要點には監視哨を配置しあり。

獨立混成第一三五旅團配備要圖
(蘇聯參戰直前)



0813

三 蘇聯參戰以後の状況

八 作戦経過

八月九日

午前六時頃蘇聯飛行機三機は琿琿（江岸）我監視哨附近を爆撃し、次いで六時三十分頃琿琿陣地に対し爆撃を行ふ。

旅團は蘇軍侵攻と判断し、直ちに戦闘配備に着手し、恰も當時他に轉用の為輸送準備中なりし琿琿陣地の備砲たりし十榴六門、十五榴二門、十加四門尙琿琿陣地にありしを以て全力を挙げて之を陣地内に搬入し、概ね正午頃迄に戦闘準備を完了す。

又琿琿新市街の邦人、軍人軍属の家族を陣地内に收容す。

八月十日

敵は昨夜一部の兵力を渡河せしめたるものゝ如く、江岸琿琿附近には戦車十数輛、自動車約六十輛、十榴級火砲十七、八門を認む。旅團は十加を以て此の敵を砲撃すると共に夜に入ると共

に挺進部隊を派遣之を攻撃せしむ。

壕壕に在りたる江岸監視隊は任地を死守玉碎せり。

八月十一日

敵の一部約三〇〇は昨夜新塚壕南側の別立河を渡河し、此の夜十時頃戦車十二輛、歩兵約三〇〇は壕壕主陣地北方より陣地に進入せんとせるも我肉迫攻撃により夜半之を撃退す。

天明と共に主陣地の十榴は射撃を開始し敵戦車二輛を撃破す。

此日孫吳及二砲方面との通信線断絶す。

八月十二日

主陣地砲兵は砲戦を續行す。

夜に入り陡嶺子（主陣地西南側）方向より敵の一部（約三〇〇）攻撃し來れるも撃退す。

八月十三日、十四日

前々日及前日の状況を反復し、其の都度敵の攻撃を撃退す。

七〇

0815

八月十五日

約一師團の敵は新環埦兵營附近に湧出し來りたるを以て主陣地の砲兵は之を射撃し相當の損害を與へたり。
此日通信隊は放送聽取中斷片的に重大放送を受信せるも意味不明瞭なり。且旅團は何等新命令を受領せざるを以て依然戰闘を續行す。

八月十六日

夕刻新環埦附近の敵約一師團は主陣地西方を経て赤吳方面に向ひ西南進を開始す。主陣地より望見するに戰車八十輛以上、火砲約九十門を算す。

敵の一部（歩兵約一聯隊、戰車二十輛、火砲十數門）は右主力の行動を容易ならしむる爲か陡溝子方向より攻進し來りしが、陡溝子正面に配備せる我中隊は奮戦力闘、敵戰車の肉迫攻撃亦克く成功し遂に我主陣地前に之を拒止す。本戰闘に於て該中隊

は中隊長以下殆ど全員死傷せり。

八月十七日

黒龍江上の敵砲艦は我陣地に對し艦砲射撃を加えたり。

此日朝水陣地に對し戰車を有する一部の敵來攻せるも我守備部隊は頑強なる抵抗を行ひ遂に之を退す。我方約一小隊全滅す。工兵隊の一部を以て陡瀟子附近を閉塞せしむ。

八月十八日、十九日、二十日

旅團は主陣地を確保し士氣旺盛、依然砲戦を續行す。當面の敵は敢て攻撃し來らず。

八月二十日

午後六時頃第百二十三師團より森少佐、中村少尉到着し停戦に關する師團命令を符せり。

旅團長は熱河の上同夜停戦に決す。

八月二十一日

旅團長は午前六時新埤埤南側別拉河橋梁に於て敵軍指揮官たる大佐と停戦に關する交渉を開始す。

交渉の結果此の日十六時武裝解除を實施し、兵力を孫吳に集結することとなれり。旅團長及參謀は直に孫吳に向ひ出發す。

八月二十二日、二十三日

旅團は孫吳に集結し收容せらる。

邦人（約一四〇名）及軍人軍屬家族（約三四〇名）は同様孫吳に收容せらる。

2. 尙山神府に位置せる旅團の歩兵一大隊は捕戦と共に軍直轄となり、八月十一日頃敵江（地名）方面に向ひ後退せり。

又二站附近の部隊は敵主力の前進に対し克く奮闘せるも、陣地未完成なると彈藥、糧食の集積未完なりし為遂に突破せらるゝに至りたり。

3. 我方の損害

旅團主力方面
朝水方面
二站方面

戦死 二四〇名
負傷 一八〇名
戦死約 二〇名
戦死約 七〇名

合計 戦死約 五一〇名